

聖ウルスラ学院英智報

# ウルスラ 英智

vol.35 2014. 9. 1

【ウルスラ教育改革10年 特別記念号】

## 英智10年の歩み



キャンパス内にそびえる  
樹齢約300年の樺の前で





## ごあいさつ

学校法人 聖ウルスラ学院 理事長

梶 田 叡 一

聖ウルスラ学院英智の幼稚園・小中学校・高等学校は、園児・児童・生徒一人ひとりを大切に、レベルの高い優れた教育を行うことを目指しています。特にこの10年は、全教職員を挙げて、本学院の特色ある教育を子どもたちの実際の育ちの形で示すべく、教育の具体的な在り方の抜本的な改善・改革を目指した取り組みをして参りました。

本学院の建学の理念は、2000年に及ぶキリスト教の伝統にあります。ヘブライズム(ユダヤ教的伝統)とヘレニズム(古代ギリシャ的伝統)を土台に発展してきたキリスト教は、一人ひとりを「神の子」として尊重し、その平等と隣人愛、そして無私の精神を強調します。また同時に知性と理性を人間性の根本として大切にし、その耕しに努めます。

本学院はまた、本部のある一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという貴重な由緒を持っています。仙台の地に培われてきた豊かな伝統・文化を手掛かりとしつつ、我が国に古来積み重ねられてきた人間教育の精髓を、次の世代の一人ひとりに着実に身に付けさせていきたいと願っています。

私たちは、こうしたキリスト教と日本の精神文化の豊かな伝統に深く根ざし、世の中のために働く力(<我々の世界>を生きる力)も、また自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力(<我的世界>を生きる力)も共に育つよう、日々の教育活動に努めております。

聖ウルスラ学院英智のこうした教育のあり方についてご理解いただき、倍旧のご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

## 未来へと伝える英智の教育

学校法人 聖ウルスラ学院 名誉顧問  
仙台伊達家十八代当主

伊 達 泰 宗



今から400年前、仙台藩祖伊達政宗公による慶長遣欧使節派遣とほぼ同時期にあたる1639年、聖ウルスラ修道会は宣教女マリー・ド・レンカルナシオンをカナダに派遣し、北アメリカの地に最初的女子教育専門の施設を開いたと言われています。それから300年後、修道会は新たな布教の地を日本に求め仙台に修道院をつくり、その後、昭和27年伊達家から学校法人へ戦後女子教育のための教場として伯爵邸が譲渡され、聖ウルスラ学院が誕生しました。平成17年、新しいコンセプトのもと小中一貫校としてのプロジェクトを進め、学びの目標を示す「英智」を校名に加え「聖ウルスラ学院英智」と名称を変更し、従来の女子校から男女共学校となり、今年で10年を迎えました。

本学院は、キリスト教的人間観に基づく人格教育を柱として、さらには自国の伝統や文化について誇りを持って語れる真の国際人の育成を教育目標に掲げています。その試みとして、平成15年より伊達家に代々受け継がれてきた礼法である「仙台藩作法」が学校設定科目としてカリキュラムに導入され、今年で12年となりました。

礼法の基本的な原則は、他者を思いやり他者のために自らを慎むことにあります。起居動作などの胴作りの基本や社会生活上の様々なルールやマナーを習得し、また四季折々に自然から恩恵を受ける日本ならではの季節の営み、そして郷土の歴史や文化を学ぶ中で、品格ある日本人へと成長することを目指しています。現代社会は、とすると先人の大切な教えを軽視し、個を重視するあまり周囲との関係が希薄になり自己中心主義に陥りがちですが、長い年月をかけて育まれた歴史文化は、常に私達に様々な例証を与えてくれるものであります。

聖ウルスラ学院英智10年を迎え、改めて保護者会並びに関係の皆様には、本学院の取り組みに深いご理解をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げますと共に、今後共なお一層のご支援を賜りますよう宜しく願いを申し上げます。

# 【ウルスラ教育改革10年 特別記念号】英智10年の歩み

本学院の教育改革は梶田新理事長を迎えた2002年に始まりました。  
以来、新キャンパス建築構想、小中12年間の一貫教育着手、教育特区申請、  
高校教育課程改革着手等、計画的に実践してきました。  
そして、2005年に長年親しんできた聖ウルスラ学院の名称を「聖ウルスラ学院英智」に改称し、  
新生ウルスラとなった本学院は今年10年目を迎えました。  
本35号は様々な改革に取り組んできた英智教育の軌跡を振り返りながら、  
その成果と今後の展望を「英智10年の歩み」と題し特集記事としてまとめました。



聖ウルスラ学院英智幼稚園

園長 佐取 美智子



「おはようございま〜す」と、元気な声で登園する子どもたち。子どもたちの笑顔はいつもすばらしく、周囲を一気に明るくします。その笑顔の奥にある大切なもの、一生の宝となるもの・・・それは、他人を思いやる気持ちです。

ここ数年、子どもたちが異年齢で活動する時間やふれあう機会を多くもつようになりました。そのことにより、それぞれの年齢に応じて、相手を思いやる心も大変よく育ってきました。また、心身共に健康であることを願い、専門教師による体育指導を取り入れ、活気に満ちた教育内容にもなりました。そして、創立当初から行ってきた英語学習は、今の社会や子どもたちに合わせ、より楽しく国際的な視野に立って学べるよう、ネイティブ教師の指導と学習ツールを使うという新しい方法に変わってきました。

社会や子どもたちの成長を見つめながら、より良い幼稚園教育を目指すとともに、どの『時』にあっても、感性豊かな子どもを育み、心の教育を一番に考えて、歩んで参ります。

聖ウルスラ学院英智小・中学校  
聖ウルスラ学院英智校高等学校

校長 伊藤 宣子



この10年間の本学院の歩みを振り返ってみます。まず、構造改革特別区域法により、本学院小・中学校は、子どもの発達段階をふまえた4・3・2制の小中一貫学校〔教育特区の実施主体〕(現在文科省が仮称としている義務教育学校)として、時の小泉内閣総理大臣から認定され、その後、制度移行によって教育課程特例校・研究開発学校として文部科学省により認定されました。また、「言語技術の教育」をテーマとした研究開発学校としても文科省の指定を受け、現在の子どもたちにとって必要な新しい教育を多面的に研究・実践し、P-D-C-A-Sサイクルによる実践・評価を繰り返し、より良き教育を求め続けてきました。これは、保護者の皆様のご理解とご協力を支えとして、教師集団・法人事務局職員が一丸となって教育パッションを燃えたぎらせて献身的努力を重ねることによってなされ続けていることであり、また、宮城県や仙台市のご指導ご支援や地域社会の皆様のご理解ご協力の賜物と、私は確信しております。この情熱は、つくば言語技術研究所所長 三森ゆりか先生のご指導によっても薪をくべられ続けてきました。

さて、この小・中学校の教育改革は、少し先に高校教育の改革に着手し、その改革成果の手応えを先生方の教育パッションとして感じとれたからこそできたことと顧みることができます。

高等学校の教育改革は、知識基盤社会(という現実社会)の中で生きていく力を養うという今世紀のニーズに応えるために立ち上げられた「特別志学コース」、そして伝統ある教育をこの時代だからこそ大切にしたいとの願いで、より高きを目指し練り直された「尚志コース」が誕生したことに始まります。教師集団も互いにほどよい刺激を受け合いながら、教師たちの教育に対する飽くなき果敢なる挑戦が続きました。このチャレンジの中から「特別志学コースType2」という、青年期の特徴的成長を余すことなく教育に盛り込んだ、もう一つのコースが生まれました。

小・中学校でも高等学校でも、教育ハード(制度)から教育ソフト(日々の具体的な実践)を、目の前の子ども達にとって最もふさわしいものに、どのように練り上げていくのか、という教師たちの挑戦が続きます。P-D-Sによって一つ一つの課題への、すみやかで丁寧な対応・改善が続きます。小・中学校と高等学校の教育改革の成果が実感となってきたとき、4・3・2+3制、すなわち併設型中高一貫教育の枠組みを加えた、小・中学校と高校の12年間一貫教育の流れを明確にし、18歳の志を実現していくことのできる総合的な人間力を育む聖ウルスラ学院英智の教育が、一つの頂に立つに至ったのです。これは子どもたちに対する多くの人々の愛の力によるものと思います。

これからの10年は、さらに少子高齢化が進み、グローバル社会、高度科学技術社会も加速していくでしょう。だからこそ、信・望・愛の価値観に裏付けられた、心豊かで、しなやかな思考力・判断力・表現力、そして論理的に課題解決できる、総合的な人間力がますます求められていくでしょう。これに応えることのできる聖ウルスラ学院英智の教育で有り続けたいと希望し、ここに教育使命を確認、共有し、教育への情熱行使を宣言します。

今日も子どもたちの声が校内に響きます。「学校は勉強するところです。勉強は賢くなるために自分から進んで行きます。賢さとは人の心がわかる優しさです。」



こころをつないで、伝統をつむいで

## みんなのわ



子どもたちの大切な友だち。  
あひるたちとの触れ合いを通して、  
思いやりや命の尊さを伝えています。



園庭には毎年大きく育つ  
竹があります。こころも身体も  
まっすぐ健やかに、竹のごとく…



校地内では5月下旬から創立者と同名の  
「アンジェラローズ」がさわやかな香りとともに  
咲き誇ります。

受け継がれてきた伝統を守りつつ、  
新しいことをプラスして時代に合った幼稚園教育を行ってきたこの10年。

年上の子も年下の子もひとつの園舎に集い  
様々な行事や毎日の生活が行われる中で、  
クラスや学年をこえたふれあいがたくさんみられます。

これからも、幼稚園のみんなが共に成長しあい、  
ひとつの輪になることを  
目指していきたいと思います。



音楽に合わせて曲のイメージを全身で表現します。  
創造力や表現力を養い、心と体の調和を作り出す  
リトミックは、1958年から続く伝統ある活動です。



クリスマス会では  
静かな雰囲気の中で  
イエス様の誕生を  
祝います。

## 共に育ち合う子どもたち

登園のようす



おへやまで  
いっしょに  
いこうね！

入園して間もない頃から、年上の子が年下の子をやさしく世話をする姿が  
たくさん見られます。おにいさん、おねえさんのやさしさは、子どもたちの心  
の中に残り、大きな組への憧れへと育っていきます。このような生活の中での  
関わりが幼稚園の中にはたくさんあり、一緒に活動した思い出や感じたこと  
は、子どもたちの心の育ちにつながっています。

オープンランド

異年齢との活動 ～今日は4歳児と5歳児が楽しい時間を過ごします～



白い帽子の「木」の中に赤い帽子の  
「こりす」が隠れる楽しいゲームです



おにいさん、おねえさんと一緒に  
“な～べ な～べ そ～こぬけ～”

始めてから10年が過ぎたこれらの活動もすっかり定着しました。子ども

## 体育教室

幼児体育研究所の先生を迎えて始  
まった体育教室も、10年を過ぎまし  
た。先生の元気な声とパフォーマンスが大人気で、子どもたちは喜んで  
取り組んでいます。身体を動かすこ  
との楽しさと同時に、挑戦する心や  
あきらめないで頑張る心の大切さも  
教わっています。



今年は天気に恵まれ、  
フニール指導が行われました！



## 預かり保育(なかよしクラブ)

保育時間が終わると、次々に子ども  
たちが集まり、なかよしクラブの部屋  
はとてにぎやかになります。異年齢  
のかかわりの中で、互いの心や体が成  
長していきます。子育て支援のひとつ  
として始められましたが、少子化の現  
代は、友だちとの遊びを求め、楽しむ  
場にもなっています。

## ちからをあわせて

クラスの友だちは、子どもたちにとってかけがえのない存在です。安心して自分を出し、やりたいことを一緒に楽しむ中で、互いの気持ちを思いやることや、自分の果たす役割など、様々なことを学んでいきます。

そして年長組になると、クラスの枠を取り払い、自分で選んだ活動を他のクラスの友だちと共に楽しみます。



子どもたちが育てるイチゴの苗は、収穫後また来年へと受け継がれていきます。

## いちごジャム

6月、年長組は自分たちで育て、収穫したいちごでジャムを作り、幼稚園のみんなを招待して、いちごジャムパーティーを開きました。いちごジャムがたっぷりのったパンを、みんなでおいしくいただきました。そして今は、「来年もたくさんのいちごが収穫できるように」と、苗づくりを始めています。こうしていちごの苗は大切に引き継がれていきます。



たっぷりのせて  
ごちそうしよう!

あまくて  
おいしいね!

おいしい  
いちごジャムに  
な〜れ!



## ようちえんまつり

子どもたちが、毎年楽しみに待っているようちえんまつり。クラスのみんなで考えを出し合い、年中組は“お店屋さん”、年長組は“ゲーム屋さん”の準備を何日もかけて行います。当日はどのクラスにもお客さんがいっぱい! クラスの一体感や、やりきった満足感をみんなで味わいます。

いらっしやいませ〜  
すてきなプレスレットは  
いかがですか〜?



ゲーム屋さん  
がんばるぞ!



## クリスマス会

クリスマス会は、1年の中でもとても大切な行事のひとつです。年長児が主になって聖劇を演じ、全園児と保護者も心を合わせ、祈りを捧げます。

また、この日に向けて、一人一人の子どもたちが、「心のプレゼント」をしようと、それぞれの目標に向けて毎日頑張ります。



自分で選んだ大切な役を  
心を込めて演じています!

## たちが大好きな活動は、元気の源です!



## デイサービス訪問

地域の方と交流を持てることに加えて、核家族で暮らしている園児にとってデイサービス訪問は、お年寄りの方と触れ合う良い機会にもなっています。いつも笑顔で喜んで迎えてくださり、たくさんの愛情を頂いて帰ってきます。



おじいさん、あばあさん、  
いつまでもお元気で!



## 新しい取り組みが始まっています

子どもたちの未来につながるウルスラ英智独自の幼児教育カリキュラムがスタートしました。まだ始まったばかりですが、興味を持って新しいことを覚えようとする子どもたちの、大きな可能性が感じられます。

### 2年目の英語教育

#### 楽しく英語に親しんでいます！

ネイティブのボール先生と学ぶ英語も今年で2年目になりました。昨年の経験が、今年につながり、どの子も喜んで週1回のレッスンを楽しみにしています。

年長組の子どもたちは、聞いた音を真似するだけでなく、正しい発音の仕方を学び、リズムやイントネーションにも気を付けながら、会話にも挑戦しているところです。そして先生と学んだ内容は、毎日学習ツール(サイバードリーム)を使用して繰り返し、次の英語の時間に活かされています。



先生の発音に耳をすませる子どもたち



### 聖ウルスラ学院英智小・中学校との連携教育

#### 小学校に行ってきたよ! ~授業参観~

6月23日(月)、年長組は、小学校1・2年生の英語の授業風景を見てきました。

小学生や先生方に迎えられ、少々緊張した面持ちでしたが、初めて見る授業の様子に、興味津々。教科書を覗き込み、発表する姿に見とれていました。そして、幼稚園でも歌っている「Head and shoulder」の歌と一緒に歌い、楽しく過ごしました。お兄さん、お姉さんとのささやかな交流も体験し、小学校への憧れの気持ちがさらに膨らんだ様子でした。



#### 小学生になってみたよ! ~体験授業~

7月12日(土)、幼小連携の取り組みのひとつとして、年長組が小学校の授業を体験しました。

普段より大きな椅子と机で、初めて体験する今回の授業は、英語とサントレ(科学的幼児教育)。憧れの小学生になった気分だったのでしょうか。小学校の先生の顔をじっと見つめて、話に聞き入っていました。また、小学3・4年生と一緒にいろいろな活動を楽しみ、小学生の優しさに触れ、心温まる交流ができたように思います。

そして教師と保護者は、本学院理事長の講演を聞き、共にことばの教育について学びました。



先生のお話にみんな真剣!



優しく教えてもらった水シロフォン作り



英語の授業では知ってる単語も出てきたよ



勉強って楽しいな♪ 漢字を教えてもらったよ

第73回 全国教育美術展

聖ウルスラ学院英智幼稚園 【教育美術奨励賞】受賞

小さなアトリエ  
こども美術館  
平成25年度



【特選】「ぞうさんがほしをとばしている」  
阿部 璃音 (年中/4才児)



【特選】「たいふうのよる」  
櫻井 勇綺 (年長/5才児)



【入選】「おとうさん」  
寺田 心春 (年中/4才児)



【入選】「もしもようちえんにぞうがきたら」  
小齋 凜乃 (年中/4才児)



【入選】「じゅうごやおつきさん」  
隈元 瞭介 (年中/4才児)



【入選】「おもいがとれたよ」  
田中 稔也 (年長/5才児)



【入選】「いもほりをしているところ」  
新田 純郎 (年長/5才児)

第32回 みやぎ児童画展 ◆世界児童画展同時出展



【特選】「おとうさん」  
※世界児童画展/入選  
安部 玉姫 (年少/3才児)



【特選】「おとうさん」  
※世界児童画展/入選  
永島 桜子 (年少/3才児)



【特選】「おかあさん」  
※世界児童画展/入選  
小齋 凜乃 (年中/4才児)



【特選】「おとうさん」  
※世界児童画展/入選  
佐藤 匠真 (年中/4才児)



【特選】「水遊びは楽しい」  
※世界児童画展/入選  
森 優奈 (年中/4才児)



【特選】「ぞう」  
※世界児童画展/入選  
佐々木 幸 (年長/5才児)

【入選】  
「おとうさん」 小林 陽輝 (年少/3才児)  
「おとうさん」 本間 康介 (年少/3才児)  
「おとうさん」 熊谷 百華 (年少/3才児)

「おかあさん」 高村 麗 (年中/4才児)  
「おとうさん」 森井 結友 (年中/4才児)  
「おかあさん」 森弘 結仁 (年中/4才児)

「ネコのかぞく」 田中 稔也 (年長/5才児)  
「どうぶつえん(ぞう)」 會田 あずさ (年長/5才児)



## 10年目を迎える英智公開研究会

副校長 金澤 孝夫

聖ウルスラ学院英智小・中学校となって早10年、「確かな学力の育成」を目指して繰り返してきた小・中一貫教育が、10年目の佳節を迎えました。ここまでの研究成果から10年目に見る子どもたちの姿は、新しく創られてきた伝統の上に育成された「確かな学力」が身についた、自信あふれる明るい元気な成長の姿でした。その姿は、子どもたちの様々な教育活動の展開から、凛々しくも誇らしくも思えるものでした。

本学院が取り組んできたことは、まず初めに指導者の指導力（授業力）の向上、二つ目に一貫した指導者の教育意識の向上と持続、三つ目に一貫した教育内容と教育方法の持続と質の向上でした。

上記の三つの向上を目指すために、校内研究会を毎月設定し、授業実践を通した研究会を行ってきました。特に言語技術の研究会を中心に、様々な分野・教科の授業研究を行いました。子どもたちの論理的思考力と表現力の育成を掲げ、教材研究を深め、学習方法を模索し、授業設計づくりをしながら一貫した授業の研究を進めてきたのです。その結果、年々気力・体力が身につく、豊かな心が育ち、学習能力は目に見えて向上してきました。更に3年前から小・中が一つの

校舎で生活を始め、よりいっそう一貫教育としての研究に拍車がかかりました。発問の工夫から言語活動を大切にしたい授業の展開を見ることができ、様々な発表の場を設けることで表現力を身につけることができました。各教科の一貫した指導が、論理的な思考力と表現力の育成に役立ち、子どもたちに学習への意欲をみなぎらせ、学習の方法を身につけることとなりました。そして、自ら学習に取り組む姿となってあらわれてきました。これが、学習能力を更に向上させる結果につながったのです。こうして念願であった身も心も育成された「確かな学力」を子どもたち一人ひとりに身につけさせることができるようになってきたと実感しています。



過去9年分の「英智公開研究会」資料

### 英智公開研究会の一日

#### 《オープニングセレモニー》

朗読や合唱の発表でお迎えします。



#### 《提案授業》

研究テーマに基づいて、各教科で提案授業を行います。



生活科の授業より  
「学校探検」の発表



みんな楽しく英語の  
学習を行います



数学



ESD



国語

#### 《分科会》



#### 《全体会》

昨年度は「日本の教育の中長期的展望」について様々な視点から、鼎談・パネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッション  
(写真は第8回、役職は当時)

#### 《閉会》

〈パネリスト〉  
文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当） 常盤 豊氏  
文部科学省高等教育局企画官 合田 哲雄氏  
宮城教育大学学長 見上 一幸氏  
日本幼児教育振興会副理事長 土屋 秀宇氏  
つくば言語技術教育研究所所長 三森 ゆりか氏 他  
〈コーディネーター〉  
前中央教育審議会副会長・聖ウルスラ学院理事長 梶田 叡一

今年度の開催プログラム等の詳細は19ページをご覧ください。



## 4・3・2制のステージ教育

### 1st stage ファーストステージ

1st ①②③④年  
2nd ⑤⑥⑦年  
3rd ⑧⑨年

#### 1年～4年生 活動の様子

ファーストステージは、直観的思考力と受動的な行動形態の入学児童が、論理的・客観的・実証的な思考と協調的な行動形態へと変化する4年間です。この時期に基礎学力の定着と学びの基礎を身につけさせるとともに、心を耕し、社会性の基礎を「しつけ教育」として行うことで、自我に目覚める10歳の壁といわれるハードルを越える力を育てていきます。また、3・4年生を中心として運動会や英智学習発表会という大きな行事を運営し、ファーストステージの団結力が高まっています。ステージ制を活かした行事も多く、子どもたちの成長が大きく見えるステージとなっています。



ファーストステージ運動会



オールイングリッシュ学習発表会



セカンドステージ運動会(シェルコムせんだいにて)



7年生 大学見学(東北大学)



泉ヶ岳登山

### 2nd stage セカンドステージ

1st ①②③④年  
2nd ⑤⑥⑦年  
3rd ⑧⑨年

#### 5年～7年生 活動の様子

発達段階において論理的で概念的な思考が形成されるこの時期は、友人関係に悩んだり、人生の中の様々な問題を考えたり、世界的な視野で社会問題を考えたりし始める時期でもあります。そこで、学習面では5年生から教科担当制を行い専門的な指導を受けることができ、7年生では成績向上が顕著に見られます。運動会など多くのステージ縦割り行事や学年体験行事で、同年代への思いやりや信頼感が生まれ充実した内面の育ちをしています。

### 3rd stage サードステージ

1st ①②③④年  
2nd ⑤⑥⑦年  
3rd ⑧⑨年

#### 8年～9年生 活動の様子

小・中の総まとめと、中高の新たな基礎固めという両面を意識して、様々な活動に取り組んでいます。具体的には、Type1コースクラスは学習に力点を置きつつ、縦割りで行き組むコース行事等において、またType2では在籍生徒の多くが部活動に入り、Type2の目標である勉強と部活の両立を図りつつ、責任感、協調性など豊かな人間性を育てています。更にType1では高校の内容まで先取りの授業をし、模試において県立の中高一貫校を上回り、成果も着実にあげています。



オーストラリア/ケアンズへの語学研修旅行



Type1コースクラス 野外活動 in 蔵王



ソフトテニス部は男子団体・女子個人が県大会出場へ

## 確かな学力の形成を目指して本校が行ってきたこと

### 論理的な思考力と表現力を育む 言語技術教育

本校の言語技術教育は、すべての学習の基盤となる「ことば」の力を総合的に鍛えるものです。言語技術科で系統的に学んだ、筋道を立てて考える力、他者の意見と比較し多角的に考える力、そして、それらを的確な言葉で話す力、書き記す力は各教科で生かされ、さらに磨かれ、学習活動をより充実したものにしています。日本の子どもは記述力が弱いといわれていますが、ここ数年、全国標準学力調査での本校の成績は、国語はもとより、社会、理科、算数の事象や式の意味を説明する記述問題においても、高いものでは全国平均を40パーセントも上回る成績を取っています。まさに、「ことば」の教育が思考力・表現力を育んだ成果といえるのではないのでしょうか。

読み聞かせ



テキストの分析



美術館で絵の分析



### 小・中学校9年間の英語教育 子どもたちの変化に着目

英智になり10年目を迎えました。この間、英語科でも様々な改革が行われてきましたが、その中で一番大きな変革が、ランゲージアーツを基盤にした論理的思考力の育成を、小・中学校9年間の一貫カリキュラムの中心に置いたことです。

ランゲージアーツの導入以降、子どもたちは、考えることに対して非常に積極的になりました。例えば、英語で問答ゲームや、絵や文の分析をすると、思考がうまく働く分、様々な英単語や文法を必要に応じてどんどん吸収していきます。読解力も身につけているため、英語でいろいろな短い物語や説明文を読解して、表現豊かに暗唱したりしています。そんな子どもたちの今後が非常に楽しみです。

英語でプレゼンテーション



音読発表会



惑星の授業



### サントレ(科学的幼児教育)導入後の 子どもたちの変化に注目して

サントレでは、難しい漢字や言葉の響き、リズムを自然に体に沁み込ませ短歌や漢詩、俳句といった日本の古典文学に親しんでいます。

瞑想から始まる静かな環境の中で、子どもたちは漢字かな交じりの美しい日本語を繰り返し声に出して読むことで、古典文学をすらすらと暗唱したり、朗読したりする力を着実に身に付けてきています。積み重ねの学習により、子どもたちの集中力や記憶力も増し、より効果的に歴史ある作品へ関心を寄せることができます。また、さまざまな知識や語彙を習得できるため、学びへの自信につなげていくことができます。子どもたちの可能性を広げるサントレ教育に今後も磨きをかけていきたいと思っています。

「ふみのちから」の授業



音楽を聴きながら瞑想中





# 児童・生徒の活動の様子

小・中一体型の学舎で、『信幸会』（児童・生徒会）も3年目をむかえました。  
5・6・7年生のクラブや、5～9年生の委員会活動は、さらに活躍の場を広げています。  
今年度は、G11+αという、各HR委員・委員長が代表で話し合う場を設け、  
これまで以上に児童・生徒主体で活動する場が増えていきます。

★信幸会とは、聖ウルスラ学院英智小・中学校の児童・生徒会です。  
「前進」していく生徒会でありたいという願いのもと、児童・生徒の手で名付けられました。



G11+α

## 宗教ボランティア委員会

エコキャップ運動も2年目を迎えました。これまでの累計はエコキャップ  
107,930個、ワクチン125.5人分です。



## 規律委員会・学力向上委員会

朝のあいさつ運動を実施しています。  
朝のあいさつ運動を実施しています。さわやかに、元気にあいさつを交わしています。



## 美化委員会

セカンド・サードステージ美化委員の  
呼びかけで、ファーストステージの児童  
達がボランティア活動をしています。



## 掲示委員会

写真を切ったり、貼ったり。掲示板を  
あざやかに飾っています。



## G11+α

HR委員と各委員会の委員長によっ  
て構成されています。委員会の活動状  
況を確認し合い、よりよい学校生活を  
目指し、話し合いを進めています。



## 放送委員会

毎朝、8時20分から朝の「お祈り放送」  
を行っています。



## 信幸会主催のイベントが“初開催”されました

### うるすら☆ふえすた

信幸会（児童・生徒会）会長  
Type2/9年 二瓶まりな

ごきげんさまでございます。

信幸会は今年度より、様々な新しい活動に取り組んでいます。まず、生徒会便り「Heart Beat」の発行です。各学年や部活動などの活動を紹介しています。次に、G11（中央委員会）の設立です。G11とは、11ある委員会の委員長とHR委員会の学年代表が学校全体に関する話し合いをする組織です。そんなG11では、8月29日に「うるすら☆ふえすた」という文化祭を行いました。このイベントは、自分たちの力で、みんなが楽しめるイベントをつくろう！という思いから始まりました。初めての企画、そして自分たちで運営していくということで、なかなか上手くいかず、何度も校長先生をはじめとする先生方と話し合いを重ねました。本当に大変でしたが、今はここまでこられたことに達成感と大きな喜びを感じています。これからも、児童生徒主体の信幸会を目指していきます。



劇「シンデレラ」より



司会も会場を盛り上げました

## Type1コース10年の歩み

特別志学コースType1 コース長 鎌田 聡

勉強する中で学びを深め、自己理解を深めていくコース生たち。一人一人が確かな学力をつけ、自分の可能性を信じ、高い「志」を掲げて果敢に挑戦する、自らの将来・進路を切り拓く逞しい生徒に育てたいということで始まった特別志学コースも、10年目を迎えました。高校でコースを設置し卒業生を送り出す中で、中高において一貫した姿勢で教育を進めていきたいという思いから試行錯誤ある中で特別志学Type1コースクラスが5年前に正式に設置されました。この春、その初めての英智小・中学校から内部進学したコース生が高校卒業を迎え、自分に磨きをかけ高きを目指した生徒たちが高等教育機関で学ぶ場を求めて大学へ進学しました。また一方で高校3年間在籍した卒業生が高等教育機関での学びと研修を終え、広い社会に自らの貢献の場を求めて就職する人も出てきました。

生徒・教師陣ともに、目標実現・改革あるのみで、突っ走ってきたと言っているこの10年間は、自分たちの変化を成長として実感しながら、共に「志」実現という目標に向かって挑戦し続けてきた10年間でもありました。このコースについての認知も進み、趣旨に賛同し入学してくれる生徒が増え、当初一桁であったコース在籍生徒数は、現在では飛躍的に増え各学年2～3クラス(50名～60名)になりました。また男子生徒も多くなり、現在では男女半々となり、切磋琢磨し男女共同で互いの長所を助け合いながら学習する、共学化当初の目標であるコース内環境ができるまでになりました。また多くの卒業生が先生方に現状報告をするために頻繁に学校に来てくれます。高校時代に国公立大学進学を目指ししっかり学びきることにつけた思考力や精神力は現在

の活躍の場において財産になっているのを強く感じます。

生徒にとってコース在学中は、とことんできるところまで挑戦し続けます。それは決して平坦な道のりではありませんが、密度の濃い人間関係を形成して、苦楽を共にした仲間同士が協力し合い、強い気持ちを持って「志」実現に向けて日々前進しています。卒業生もそのように生活している後輩や先生方を支えてくれます。野外活動や大学研修会の行事、進路における総合学習の時間には卒業生との交流も見られ、自分の目標となる先輩を超えるべく、頑張り続けるエネルギーにしているようです。

これからの社会で生きていくためには、しっかり人と人とがつながり合い、知恵を出し合いながら助け合うことが必須であると考えています。コースで学ぶ一人一人が互いに自分の個性(専門性)を持ちながら、協力し合って社会を形成する一員になるために日々成長をしていく生徒と教師集団でありたいと願っています。

### 10年間の卒業生の主要進学先

#### 国公立大学

- 東京大学
- 東京工業大学
- 東北大学
- 名古屋大学
- 横浜国立大学
- 千葉大学
- 埼玉大学
- 宇都宮大学
- 宮城教育大学
- 福島大学
- 山形大学
- 岩手大学
- 首都大学東京
- 宮城大学 等

#### 私立大学

- 自治医科大学
- 早稲田大学
- 慶應義塾大学
- 東京理科大学
- 中央大学
- 法政大学
- 明治大学 等

### 現在の活動の様子



夏期勉強合宿

7月22日から4泊5日の日程で開催された恒例の夏期勉強合宿では、起床から就寝まで徹底的に学びと向き合います。



授業の様子



球技大会

### 新任教員から見た Type1コース

数学科教諭  
藤崎 幸寛

昨年度Type1コースに赴任して、初めの数か月間感じたことは、「こんなコースがあるのか!」という驚きでした。特に、学習面でも生活面でも生徒に求めるレベルの高さに驚きました。正直、最初は「厳しすぎるのではないか」という疑問や戸惑いもありましたが、Type1最大のイベント「勉強合宿」などをきっかけに、成長していく生徒の様子を見て、厳しさの意味を実感しました。

今では私は、「高校時代をType1で過ごしてみたい」と思っています。勉強面においても、生活面においても、考える力を育むことができ、足りない部分は教員の熱心な指導により、改善することができる。仮に私が高校時代をType1で過ごしていたなら、今の自分よりもより深く考え、自分を律することのできる自分であらうのではないかと思います。

勉強を通して、自分を磨きぬくことができる場所、それがType1なのだと考えています。そのコースを支える一スタッフとして、私自身も生徒とともに日々邁進していきたいと思っています。



# Type2コース8年目を迎えて

特別志学コースType2 コース長 及川 博暁

「特別志学コースType2」は部活動・課外活動のできる特進コースとして平成19年より開設されました。それまでの特進コースである「特別志学コース」を時代の変化と地域社会のニーズに応えるために、学習活動に特化した「特別志学コースType1」と部活動・課外活動の可能な「特別志学コースType2」の二つに分け、それぞれが独立して、互いに切磋琢磨しながら活動していく形になりました。

進路目標については、一般入試で国公立大学進学を目指すType1に対して、Type2では難関私大および中堅国公立大学進学を目標としています。一般入試に加え、部活動や個人の様々な活動実績を利用する推薦入試、AO入試でも挑戦していけるため、Type2生は入学時から自己啓発を意識し、日々、勉強や部活動等に励んでいます。

進学実績は、昨年卒業した4期生から国公立大学、難関私立大学への合格者が大幅に増えました。今年の春に卒業した5期生は17名が国公立大学に、30名以上が早慶上智、MARCH(明治、青山学院、立教、中央、法政)と言った難関私立大学に合格をしました。

そして、これからの大きな社会変化の一つとして「グローバル化」があげられますが、Type2では第2外国語としてフランス語を必修科目としています。英語とフランス語の両方を学ぶことにより、互いの比較を通してより深く言語や文化にふれることができます。留学制度も充実しているため、留学する生徒も留学に来る生徒も多く、海外の仲間がたくさん作れるのもType2の特徴の一つです。また、Type2の設立当初からの特色教育として「高大連携授業」を行っています。東北福祉大学の協力を得て、高校1年から高校2年までの2年間で13回講義を受けるというものです。実際の大学の様々な講義を受けることで高校での学びが大学でどのように発展するのか、また、なぜ高校での学習が必要なのかを体験的に学ぶことができます。

Type2の生徒は、朝の課外授業から上記のような特色ある授業も含め様々な学びをします。そして、放課後の部活動等の活動を通して汗をかき、友達との交流を通して人間的に成長していきます。



## 2007年入学の第1期生

1期生は28名でスタートしました。2期生48名、3期生51名、4期生103名と人数が増え、今年は103名の8期生を迎えました。

## 5年間の主要大学合格実績

- |            |          |            |
|------------|----------|------------|
| ● 東北大学     | ● 秋田大学   | ● 立教大学     |
| ● 東京学芸大学   | ● 山形大学   | ● 中央大学     |
| ● お茶の水女子大学 | ● 高崎経済大学 | ● 法政大学     |
| ● 名古屋大学    | ● 琉球大学   | ● 東京理科大学   |
| ● 北海道大学    | ● 早稲田大学  | ● 成蹊大学     |
| ● 宮城教育大学   | ● 上智大学   | ● 立命館大学    |
| ● 宮城大学     | ● 慶應義塾大学 | ● 東北福祉大学   |
| ● 弘前大学     | ● 明治大学   | ● 東北学院大学   |
| ● 岩手大学     | ● 青山学院大学 | ● 東北薬科大学 等 |

## 現在の活動の様子



高大連携授業の様子



フランス修学旅行(パリ)



フランス修学旅行  
(南フランス)



遠足(山形県さくらんぼ狩り)



球技大会の様子

## 慶長遣欧使節出帆400年記念事業 「平成青少年遣欧使節団派遣プロジェクト」に参加

平成青少年遣欧使節団派遣プロジェクトにおいて、宮城県の高校生を代表して2年の菅原みなみさんと豊川絢菜さんの2名が、宮城県知事の親書を携え、7月23日から9日間にわたるスペイン各地での様々な国際交流事業に参加してきました。



コリア・デル・リオ市の  
支倉常長像

慶長遣欧使節団の子孫と言われる「ハボン」さんと



グラナダの風景

## 尚志コース10年の歩み

尚志コース長 コース長 坂田 浩二

尚志コースは、平成15年度から新設された「特別志学コース」のスタートに合わせて、それまでの女子高時代からの伝統を受け継ぐ「女子コース」として、コースの歩みを始めました。そこから数えると、今年でコース発足12年目を迎えています。コースがスタートした時から、このコースのコース長を務めさせていただいてきた立場から、この10年余りの歩みを振り返ってみたいと思います。

このコースは、発足当初は、進学指導に特化された特色を持つ「特別志学コース」に対する立場から、「一般コース」と称していましたが、翌平成16年度の7月から新築された新校舎での授業が開始されるのに合わせてコース名を現在の「尚志コース」と改称しました。尚志コースは、それまでのウルスラの伝統を受け継ぐというコースではありましたが、新たにコースとして独自の目標を持って歩んでいくための方向性を考え、「10年後、20年後の社会で活躍できる人材を育てること」を中心に据えて、新しい取り組みを企画しました。現在、尚志コースの最大の特色ともいえる「仙台藩作法」の授業をはじめ、入学直後の新入生校外宿泊オリエンテーションや、進路の目標に向き合うための「進路見学・体験・相談会」の企画、進路目標別の「系」別カリキュラム（当初、系は「自然科学系」「人文科学系」「社会科学系」「外国語系」の4つに分かれていました）、総合的な学習の時間を活かした「国際理解ゼミ」、学校設定科目として「福祉入門」「国際理解実習」の授業の新設などは、いずれもコース発足初年度から新たに導入した取り組みでした。また、お馴染みの「尚志コースの三本柱」は、コースがスタートして3年目にあたる平成17年度から打ち出すようになったもので、今や、このコースの特色を表す代名詞ともなっています。さらに、コース独自の修学旅行の検討をおこない、平成19年度から、学院の源泉を訪ねる旅「イタリア海外修学旅行」をスタートさせました。こうして、コースとしての特色や独自性が次第に形作られてきましたが、その一方で、年々、変化していく部分もありました。特に、進路指導をより強化することを意図して導入した「キャリア・デザイン」「キャリア・ゼミ」の時間を通し

て3年間にわたって進路に関する指導を進めてきていますが、生徒の進路に関する目標は、初期の頃に比べて明らかに四年制大学進学志向が高まってきています。もともと多様な進路目標を持つ生徒の集まりであることを意識してコースの進路指導は進められてきており、生徒の目標が多様な目標に分かれていることには今も変わりはありませんが、その割合は、当初と比べると大きく変化してきています。そうした状況に合わせて、2年次からの「系」別カリキュラムの大幅な見直しや、毎日の終礼時の英語・漢字小テストの実施、朝の課外の設定などを進めてきています。そして、この10年余りの間の最大の変化といえば、「女子コース」として長く運営されてきたこのコースに男子が入学したことです。平成24年度に初めて迎えた男子一期生が今年度3年生となり、平成26年度は全学年に男女が生活する共学化完成年度となるとともに、初めての男子卒業生を送り出します。全体の人数からみれば、男子は少数派ではありますが、着実にコースに新しい風を吹き込んでくれています。

これまでの10年余りの間、尚志コースは、本校の本体部分を担うコースであるという自覚と誇りを持って歩んできました。これからも時代の変化を的確にとらえつつ、本校を支えるコースとして、益々発展していけるよう運営に力を注いでいきたいと考えています。

### 10年間の卒業生の主要進学先・就職先

#### 大学

- 宮城大学
- 宮城教育大学
- 上智大学
- 早稲田大学
- 明治大学
- 順天堂大学
- 聖心女子大学
- 神奈川大学
- 東洋英和女学院大学
- 神戸女学院大学
- 東北学院大学
- 宮城学院女子大学
- 東北薬科大学
- 東北福祉大学 等

#### 就職先

- アイリスオーヤマ
- 藤崎
- 三越
- 大崎八幡宮
- いたがき 等

◎就職内定率100%

### これまでの活動の様子



1年生の「キャリア・デザイン」  
開始当初の様子



第1回イタリア修学旅行  
（ヴァチカン）



導入初年度の福祉入門の授業風景



仙台藩作法導入当初の授業風景



尚志コース 男子一期生6名



当初は泉ヶ岳で行われていた  
新入生校外宿泊で  
オリエンテーション



進路見学体験相談会開始当初の  
トリマーコース  
（卒業生のお店で体験）



初年度から続いている  
聖ウルスラ学院英智幼稚園での  
保育士体験



## 茶道部

茶道部って、  
どんなことをしているの？

特別志学コースType2/1年 西谷 采華

ごきげんさまでございます。私たち茶道部は週1回の活動で「和敬清寂」を心に留めて活動しています。

皆さんは「茶道」と聞くと「正座が辛そう」、「堅苦しくて嫌」などマイナスのイメージを持っていませんか？でも実際はプラスの部分が多いと感じます。例えば尚志コースと違い、仙台藩作法に特別授業という形で参加しているType2の生徒からは、茶道部の活動が日本文化により深く触れることのできるよい機会になっているという声をよく聞きます。また尚志コースの生徒からは、自分の国の礼儀を知りたくて入ったという声や、仙台藩作法の授業以外でも作法を学びたくて入ったという声が聞かれます。

そしてウルスラ英智の茶道部は優しく丁寧な顧問、副顧問の先生、ユニークな先輩方が私たちを導いてくださいます。これからも仲間たちと共に切磋琢磨し合い、楽しく活動していきたいと思います。



カナダからの短期留学生と茶会を終えて(本学院作法室にて)

## 放送部

放送部の活動について

尚志コース/2年 松坂 里帆

私たち放送部は、現在11人の部員がおり、学内外でいろいろな活動に取り組んでいます。学内では、朝のお祈りの放送や学校行事での聖書朗読。また、学外ではコンテストに参加したり、FM仙台の「とびだせ高校生諸君」という番組のパーソナリティを務めたりしています。

伝統のある部活動で、毎週木曜日には卒業生であるプロのアナウンサーの方からのレッスンを受けています。早口言葉やアクセントなどの基本から学び、連絡やインタビューの仕方などの実践に取り組みます。大会に向けても、全員で取り組み、お互いに切磋琢磨しあいながら、日々活動をしています。

朝のお祈りや校長先生の聖書講話が生徒のみなさんの心にもっともっと響くように、これからも一生懸命取り組んでいこうと思っています。



## 卓球部

ウルスラ英智卓球部は  
アンパンマン!!

卓球部 顧問 佐藤 雄二

「アンパンマン」は、自らを犠牲にしてみんなに「愛と勇気」を与えてくれます。仲間が苦しい時、つらい時に支え合えるチームになれるように「一人一人がアンパンマンのような存在になろう!」という思いでチームのマスコットとし、日々活動しています。チームの目標は「インターハイ出場」です。そのために技術・体力・心が進歩向上するように日々活動しています。特にフィジカル・メンタルの面はトレーナーの江刺さんの協力のもと強化しています。大会時などの心の持ち方など、持てる力を発揮するための考え方や方法などを指導いただき、選手たちの成長も感じています。

今年度の県総体団体戦準決勝で敗れた後、選手同志が「自分のせいで」と号泣しながら謝っている姿を見て、チームとして成長を感じたと同時に来年こそは目標を達成したいと強く思いました。現チームは、明る過ぎる?くらい元気です。チームの一員としても選手としても「アンパンマンのように」を目指して、日々進歩向上していきます。



## 書道部

今年も大盛況、ご来場  
ありがとうございました!

特別志学コースType2/3年 佐藤 晴海

恒例となりました「第15回 聖ウルスラ学院英智高等学校 書道部 書道展」が7月31日～8月5日まで藤崎催事場にて開催されました。会場での書道パフォーマンスも3回目となり、さらに向上しようと取り組みました。書道展の主題である松尾芭蕉の言葉「不易流行」をテーマに伊達家と東北について学び、一筆一筆に力を込めて書き上げました。

期間中お越しいただきました多くの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 第44回 全国中学校バドミントン大会

【8月19日～22日 愛媛県西条市】

### 女子 団体 第3位

[主 将] 鈴木ゆうき (9年)

長谷川真子 (9年) 出戸 成美 (9年)  
岡村 あみ (9年) 安部 真由 (9年)  
加藤 彩音 (8年) 遠藤 育帆 (8年)



### 女子 シングルス 第3位

鈴木ゆうき (9年)

### 男子 団体 ベスト8

[主 将] 日野 滋斗 (9年)

嶺岸 洸 (9年) 齋藤 晃輝 (8年)  
佐藤 孝伸 (8年) 寺島 颯大 (8年)  
熊谷 翔 (7年) 藤澤 佳史 (7年)



### 男子 ダブルス 第3位

嶺岸 洸 (9年) 組  
齋藤 晃輝 (8年)



#### 大会を振り返って

全国中学校大会を振り返って、私たちは全中優勝という目標を持ち、一生懸命がんばってきました。結果は団体戦3位、個人シングルス3位と優勝にはとどきませんでしたが、メンバーだけでなく、16人全員が丸一となって戦ったことなので良かったと思います。いつもご指導してくださる顧問の先生方、たくさん声援を送ってくださる保護者の皆さま方には感謝の気持ちでいっぱいです。今後9年生は高校に進学してインターハイ優勝を目標に、8年生、7年生は全中優勝を目標に頑張っていきます。ありがとうございました。

中学女子主将 鈴木ゆうき

#### 大会を振り返って

男子バドミントン部は部員9人と少ないですが、皆元気で個性あふれる9人です。僕たちは「全国優勝」を目標に日々練習に取り組んできました。しかし、結果は団体戦ベスト8、個人ダブルス3位でした。ですが、皆で力を合わせてこの全中を終えることができました。四国まで応援に来てくれた家族、日々熱い指導をして下さった先生方には大変感謝しています。これからは「インターハイ優勝」また、「全中優勝」という目標のもと、日々努力します。

中学男子主将 日野 滋人

## 第65回全国高等学校バドミントン選手権大会《インターハイ》【8月1日～6日 千葉市】

### 女子 団体メンバー

[主 将] 神 優衣 (3年)

[マネージャー] 橋本 紗苗 (3年)  
甲斐妃美子 (3年) 鈴木いよ乃 (3年)  
清水 一希 (2年) 徳能あすか (1年)  
保原 彩夏 (1年) 和田 毬代 (1年)

#### 大会を振り返って

私たち高校女子バドミントン部は8月1日から6日まで千葉で開催されたインターハイに出場してきました。団体戦は3回戦で西武台千葉高校に3対1で敗れ、ベスト16という結果でした。

インターハイに出場して感じたことは、日々の練習から身体を鍛え技術を身に付けることはもちろん、メンタルトレーニングの必要性を強く感じました。後輩たちにはインターハイで学んだことを活かして来年のインターハイに向けて頑張ってもらいたいと思います。ご指導して下さった顧問の先生方、応援してくださった先生方、生徒の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

高校女子主将 神 優衣



### 男子 団体メンバー

[主 将] 菅原 栄史 (3年)

[マネージャー] 河原 大樹 (3年)  
高橋 歩夢 (3年) 篠崎 孝浩 (3年)  
佐藤 翔 (3年) 野村 拓海 (2年)  
浅原 大輔 (2年) 丸山 優斗 (2年)

#### 大会を振り返って

僕たち高校男子バドミントン部は8月の1日から6日にかけて千葉県で行われたインターハイに出場してきました。僕たちは3回戦で全国選抜大会で優勝した柏原高校とあたる組み合わせでした。チームで「打倒柏原」をかけた大会に臨みました。ですが2回戦で岡山県の水島工業に2対3で負けてしまいました。インターハイでは勝負の厳しさを改めて実感しました。このことを後輩たちにしっかりと伝え、来年に繋げてほしいです。これまで厳しく、熱心に指導して下さいました先生方、校長先生はじめ応援して下さいました沢山の先生方、いつも見守ってくれた家族、お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

高校男子主将 菅原 栄史



### 第23回 宮城県高等学校 声楽コンクール

#### 優秀賞 受賞

全日本高等学校  
声楽コンクール出場《宮城県代表》  
尚志コース3年 板澤 諒子

### 【ソフトテニス部】 インターハイ出場おめでとう!

#### 女子個人戦 ダブルス

尚志コース3年 東 咲綾乃 組  
尚志コース1年 畑中 奏美

### 【吹奏楽部】

全日本吹奏楽コンクール  
第57回宮城県大会  
金賞 第一位《海鋒義美賞》

同 東北大会  
金賞



# 聖ウルスラ学院英智の教育に寄せて

## 幼稚園 母の会

会長 佐々木美麻



「マリア様、いつも見守ってくださりありがとうございます」「世界中の人が幸せに暮らせますように」「津波で亡くなった方が救われますように」

これらは、聖ウルスラ学院英智幼稚園の子どもたちが七夕の短冊に書いていた願いごとです。お願いごとには、自分が主語であり、かつ「○○になれますように」「○○がほしい」などを書くものだと思い込んでいた私は、感謝の言葉や、他人を思いやる言葉が自然と出てくる園児たちに感銘を受けました。

転勤のため年長クラスに転園してきた息子は、こちらの幼稚園が3か所目の幼稚園であり、転園してすぐ「ここの幼稚園が一番好き」「お友達がみんな優しく教えてくれるんだよ」「先生がたくさん褒めてくれるんだよ」と嬉しそうに話していました。担任の先生が、子どもにも親にもたくさん声をかけてくださるので、親子ともに安心して幼稚園生活をスタートさせることができました。

園生活で困っている友達に、そっと手を差し伸べ、励まし、声をかけてくれ、「ありがとう」と言える。そんなことが当然のようにできる子どもたちの様子を見てみると、本園の集団生活を通して『感謝と思いやりの心』が育まれているのだと実感します。佐取園長先生はじめ、先生方の愛情深く慈しみあふれる関わり、きめ細やかな心配りとたゆまぬ努力のおかげで、子どもたちは心豊かに、のびのびと育っています。幼少期に人に愛され、どれだけ心を豊かにできるかということは、将来にわたる人間形成に大きく関わってくると言われます。この大切な時期に、このような教育を受けられることに、とても感謝しています。

近年、こども園への移行や、幼稚園と小学校の連携など、幼稚園教育に求められることが増えてきているように感じられます。しかし、受け継がれてきた伝統と確かな教育理念のもと、先生方の努力によって時代の変化にも対応してこられた本園の教育は、どのような制度の改革にも対応され、発展していくことと期待しています。

今日も慈しみの愛に包まれて、子どもたちの笑顔が輝きます。

## 小・中学校 高等学校 父母教師会

会長 渡邊 裕介



2013年5月のPTA総会で小・中、高のPTAが一本化してから早1年と数ヶ月が過ぎようとしております。それまでのPTAは木ノ下キャンパスにあったファースト及びセカンドステージまでのPTAと、一本杉キャンパスにあったサードステージ及び高校を主体とするPTAの二つに分かれておりました。同じ学校であったにもかかわらずキャンパスが二つに分かれていたために、また活動内容及び組織の形態が全く異なったために、別々の組織として活動をしておりました。両PTAは交流する機会も少なく、お互いがどのような活動をしているのかもそれほど知らず、もちろん予算や決算等、ひいてはPTA総会まで別々に行っていたのです。そこで学校が木ノ下キャンパスから一本杉キャンパスへの統合を果たしたのを機に、晴れて両PTAも統合を果たしました。

今では小学校1年生から高校3年生までが同じ門をくぐる、全国でも珍しい小・中、高等学校となりました。皆様方からの甚大なるご協力を頂きながら何とかここまで辿り着いております。児童生徒たちが毎日楽しく学校生活を送れるのもPTA会員並びに同窓生の皆様方の並々ならぬご尽力が有ってこそ、と感じております。今後ともますますのご支援をよろしくお願い申し上げます。



Piano Violin



生徒募集中

どなたでも随時入室できます。

## 聖ウルスラ学院英智音楽教室 ～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は、創設67年という長い年月、キリスト教精神を礎に、音楽を愛する多くの皆様のご支援とご協力により支えられてまいりました。

小さなお子様から「大人のための教室」も充実し、共に音楽を学ぶ楽しさを育むレッスンを行っております。

第67回

### 定期演奏会のお知らせ

と き／平成26年11月23日(日)  
10:00～17:00

ところ／仙台市若林区文化センター ホール

入場無料

どうぞ、  
お問い合わせしてお越しください。

# 同窓会だより

## 幼稚園

### 〈集まりの日〉

2014年2月1日、卒園をした6年生が集う、「集まりの日」が開かれました。今年で18回目を迎えました。

久しぶりの幼稚園への訪問は、子どもたちにとって少し照れくさい事ようです。会の始まりは、どの卒園生たちからも少し緊張をした表情が見られました。しかし、懐かしい友だちや先生方とゲームをしたり、交流を深めていくうちに雰囲気が和み、リラックスした子どもたちの笑顔をたくさん見ることができて、とても嬉しかったです。また、幼稚園時代の写真を見たり、想い出話に花をさかせるなど、幼稚園で過ごした日々をみんなで振り返りました。あんなに小さかった子どもたちが、心身共に大きく成長した姿を目の前にして、胸がいっぱいになった一日でした。

今年度「集まりの日」は、2015年2月7日に行われる予定です。6年生の皆さんに会える事を心から楽しみにしています。



平成19年度卒園の子どもたち64名が各地から集まりました。  
(写真は花3組の皆さん)

## 小・中学校

小・中学校は、一本杉に校舎を移してから3年目を迎えています。校舎一体型の小・中学校になって在校生がひとつの家族となったように、英智小・中学校になってからの同窓生も285名と大きな家族になりました。同窓生の1回生は今年22歳となり、社会と人々に奉仕する職業人としてまさに『地の塩、世の光』となってお活躍されていらっしゃることでしょう。

若い同窓会員の皆様は、学業に仕事に、ますます忙しい日々を送られていらっしゃると思いますが、どうぞ懐かしい先生方と新しい学び舎をいつでも訪ねていただき、旧交を深めていただければと思います。今後の同窓生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(同窓会事務局より)

## 高等学校

東日本大震災の年に入学しました53回生273人が、卒業式前日同窓会に入会いたしました。多くの困難を乗り越えたこの期の後輩たちは、大きな志と希望を携えて新生活へと巣立ちました。

また、これまで寄せられた義援金は学校に寄贈し、震災により被害を受けた在校生の支援に大いに役立ち感謝されました。皆様方の善意に心より御礼申し上げます。尚、10月には、「復興仮設商店街での買い物会」も予定しております。

会長 今野 麻里

## 卒業生からのメッセージ



平成3年度 聖ウルスラ学院幼稚園 卒園

木村 美沙



いつか自分の子どもが生まれたら、ウルスラ英智幼稚園に入園させたいなあ。幼稚園が大好きだった私はそう思っていました。優しい先生方、友達と楽しく遊んだ日々、宗教で学んだ神様からの愛のメッセージ。どれも楽しかった思い出です。

月日が過ぎ、私にも娘が生まれ親になりました。娘を幼稚園に入園させる日が近づいていた頃、偶然顔見知りの方からウルスラ英智幼稚園の話聞く事がありました。すると私がお世話になった先生方がまだたくさんいらっしゃることを知り、とても嬉しくなりました。入園させたかった理由に、私が通っていて楽しかったからというものもありますが、神様からの愛のメッセージをいっぱい学んで思いやりのある、やさしい子になってほしいという願いも込められていました。

娘が入園し、私は次々と懐かしい記憶が蘇ってきました。あの頃と少しも変わらないやさしい笑顔の先生方。園庭の砂場に“ガーくんボーくん”の遊具。机も椅子も昔のまま。子どもの頃は大きく長かった廊下のスロープ。大人になってみると、「こんなに小さかったんだ」と不思議な感覚になりました。

私と同じで娘も幼稚園が大好き。帰ってくると、いつもいろいろな話をしてくれます。新しく増えた行事もありますが、私の頃から変わらない行事もたくさんあり、親子で共通の話題が出来る喜びを日々感じています。宗教で神様の話を聞いている娘。7月のある日の出来事です。娘を歯医者さんに連れて行った時、院内に子どもたちの短冊が飾ってありました。

「よかったら書いてね」と言われた娘は「ママ、なんて書くの？」と言うので、「自由に書いていいんだよ」と言いました。すると少し考えた娘が書いた願いは、『みんながしあわせになりますように』。この願いを見た時、ちゃんと神様のメッセージを受け止め思いやりのある子になってくれていると嬉しくなりました。「お金で買えないものがある」。ありきたりな言葉ではありますが、私がウルスラで過ごした思い出の日々はここでは書ききれないほどたくさんあり、心の中の宝物となっています。

そして娘にとっても幼稚園での生活は残り僅かとなってきました。楽しい思い出をたくさん作り、どうかお金では買えないすばらしい宝物をいっぱい見つけてほしいと思います。



【研究主題】 21世紀に必要な資質と能力の育成を目指して  
—課題解決型の授業の在り方—

本校は内閣府による教育特区、そして文部科学省の研究開発学校として、この10年間、研究と実践を続けて参りましたが、本校の取り組みはどのように子どもたちを成長させているのでしょうか。この10年記念研究会では、この点を紹介する内容にしたいという願いを持って、今年度の日々の教育に取り組んでおります。研究会の具体として、研究提案授業の公開、教育プレゼンテーション、児童生徒による学びのポスターセッション等を予定しております。ぜひご参会賜りまして、忌憚のないご意見を頂戴いたしたく、ご案内申し上げます。



- ◎日 時:平成26年**11月29日(土)** **9:00~16:30**(受付 8:00~)  
◎会 場:聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館  
◎主 催:聖ウルスラ学院英智小・中学校  
◎後 援:宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会  
◎参加費:一般/**1,000円**(資料代を含む) 学生/**無料** <別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます>

当日のスケジュール

| プログラム           | 時 間         | 会 場                 | 詳 細                                                                                |
|-----------------|-------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 受 付             | 8:00~       | 1階<br>エントランス<br>ホール |                                                                                    |
| オープニング<br>セレモニー | 9:00~10:15  | 講 堂                 | 理事長挨拶 祝辞<br>児童・生徒による<br>ポスターセッション・プレゼンテーション                                        |
| 授業 1            | 10:30~11:20 | 各教室                 | 国・言語、算数、社会、理科、英語                                                                   |
| 授業 2            | 11:30~12:20 | 各教室                 | 国・言語、数学、数学(高等学校)、英語、音楽                                                             |
| 昼 食             | 12:30~13:20 | 各教室                 | (お弁当引き替えは1階エントランスホールです)                                                            |
| 分科会             | 13:30~14:50 | 各公開授業の<br>教室        | 各分野別教科分科会<br>授業研究会                                                                 |
| 講演会             | 15:00~16:20 | 3号館講堂               | 【講師】<br>一般財団法人学校教育研究会 理事長<br>元東京都品川区教育長 若月 秀夫 氏<br>【ご挨拶】<br>文部科学省 学術研究助成課長 合田 哲雄 氏 |
| 閉 会             | 16:20~16:30 | 3号館講堂               | 【閉会の辞】<br>校長 伊藤 宣子                                                                 |

特別講演 講師

一般財団法人学校教育研究会 理事長  
元東京都品川区教育長 若月 秀夫 氏

来 賓

文部科学省 学術研究助成課長 合田 哲雄 氏  
文部科学省 初中局教育課程企画室長 大杉 住子 氏  
国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村 学 氏  
宮城教育大学学長 見上 一幸 氏

指導助言者

つくば言語技術教育研究所所長 三森ゆりか 氏  
つくば言語技術教育研究所主任講師 田中 澄江 氏  
関西福祉大学 副学長 加藤 明 氏  
上智大学教授 和泉 伸一 氏  
宮城教育大学教授 松岡 尚敏 氏  
宮城教育大学教授 高橋 潔 氏  
宮城教育大学教授 田幡 憲一 氏  
福島大学教授 森本 明 氏  
宮城教育大学准教授 原田 博之 氏  
聖ウルスラ学院英智小・中学校指導主事 氷室 真也  
奈良学園大学学長  
前中央教育審議会副会長  
兵庫教育大学前学長  
学校法人聖ウルスラ学院理事長 梶田 叡一

※ご参加には事前のお申し込みが必要です。参加申し込み他、詳細はホームページなどをご覧ください。

募金委員会より

「聖ウルスラ学院英智 キャンパス統合小・中学校 高等学校 校舎一体化事業」に際し、多くの皆様よりご寄附をお寄せいただきましたこと、誠にありがたく感謝しきれない思いでございます。

募金期間は平成26年3月末をもって終了しておりますが、教育活動、運営におけるご寄附につきましては随時承っておりますので、引き続き本学院への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



小・中学校 新校舎

# 平成27年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

| 校 種                                                                          | 募集定員                                   | 出願日/出願期間                                                     | 試験日                                                | 試験内容                                                                    | 合格発表                  | 体験入園/オープンスクール等                                             |
|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------|
| 幼稚園                                                                          | 3年保育/男女 65名<br>2年保育/男女 30名<br>1年保育/若干名 | 11月1日(土)                                                     | ※詳しくは要項・願書をご覧ください<br>要項・願書配布期間……10月1日(水)～10月31日(金) |                                                                         |                       | <公開保育>10月7日(火)<br><体験入園>10月11日(土)                          |
| 小・中学校<br><br>文部科学省<br>指定<br>教育課程<br>特例校<br>研究開発学校<br><br>併設型<br>中高一貫<br>教育学校 | 小学校課程<br>新1年生<br>(F1年生)<br>男女 50名      | 前期<br>10月22日(水)～<br>11月1日(土)<br>後期<br>11月17日(月)～<br>12月1日(月) | 11月8日(土)<br>12月6日(土)                               | 運動面・知能面・<br>生活面の検査<br>面接(本人と保護者)                                        | 11月10日(月)<br>12月8日(月) | <学校教育説明会><br>①9月13日(土)14:00～<br>②10月4日(土)14:00～            |
|                                                                              | 中学校課程<br>新1年生(S7年生)<br>男女 70名          | 前期<br>12月1日(月)～<br>12月12日(金)<br>後期<br>1月5日(月)～<br>1月10日(土)   | 1月7日(水)<br>1月14日(水)                                | 学力検査(国語・算数)<br>面接(本人と保護者)<br>学力検査(国語・算数・<br>社会・理科)                      | 1月8日(木)<br>1月15日(木)   | <新中学1年生対象<br>オープンスクール><br>10月18日(土)<br>13:30～              |
|                                                                              | 特別志学コース<br><Type1><br>男女 40名           | 奨学生推薦<br>推薦<br>一般<br>(含 奨学生・専願)                              | 1月5日(月)～<br>1月10日(土)<br>1月5日(月)～<br>1月16日(金)       | 作文・面接(本人と保護者)<br>※出願条件に規定あり<br>学力試験(国語・数学・英語)<br>面接(本人のみ)               | 1月15日(木)<br>2月4日(水)   | <オープンスクール><br>10月18日(土)<br>13:30～                          |
|                                                                              | 特別志学コース<br><Type2><br>男女 60名           | 奨学生推薦<br>一般<br>(含 奨学生・専願)                                    | 1月5日(月)～<br>1月10日(土)<br>1月5日(月)～<br>1月16日(金)       | 作文・面接(本人と保護者)<br>※出願条件に規定あり<br>学力試験(国語・数学・英語)<br>面接(本人のみ)               | 1月15日(木)<br>2月4日(水)   | <特別志学コース<br>見学会・相談会><br>①11月1日(土)13:30～<br>②11月8日(土)13:30～ |
| 高等学校                                                                         | 尚志コース<br>140名<br>※男子:奨学生推薦10名、他        | 奨学生推薦<br>推薦<br>一般<br>(含 奨学生・専願)                              | 1月5日(月)～<br>1月10日(土)<br>1月5日(月)～<br>1月16日(金)       | 面接(本人と保護者)<br>※出願条件に規定あり<br>面接(本人のみの個人面接)<br>学力試験(国語・数学・英語)<br>面接(本人のみ) | 1月15日(木)<br>2月4日(水)   |                                                            |

☆高等学校:一般入試において男子も尚志コースへスライド合格判定をしています。

ただし、尚志コースに從來から設置しております1年次の大学進学選抜クラスに所属できる力が認められることを基準に男子の尚志コーススライド合格を総合判定します。

### 幼稚園のスクールバス

<主な運行路線>

※平成26年度 9月1日現在

### 小・中学校/高等学校のスクールバス

遠方より通学する小・中・高校の児童・生徒の安全と便宜を図るため各方面に朝と帰りにスクールバスを運行しています。

<運行コース>

Aコース…鶴ヶ谷・沖野方面  
Bコース…泉・高森直行便  
Cコース…岩切・宮町方面  
Dコース…大野田・西多賀方面  
Eコース…名取・ゆりが丘方面  
Fコース…泉中央方面

※平成26年度 9月1日現在

※ この運行コースは平成26年度のもので、ルートや停車場も次年度以降は変更される場合があります。  
※ 各コースとも定員となった場合は、低学年優先となります。



## 学校法人 聖ウルスラ学院



聖ウルスラ学院英智

幼稚園

〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号  
TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014

小・中学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号  
TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431

高等学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号  
TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279

法人事務局

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号  
TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

<http://www.st-ursula.ac.jp/>



[編集委員] 委員長/高橋 直見(法人事務局長) 幼稚園/庄子 美和・沢田 智恵 小・中学校/日下 彩香 高等学校/根来川 誠・内池 千恵子・臼井 昭子

[編集事務局] 今野 正則(法人事務局次長)

[編集協力・製本] 株式会社アド東北プロ